

虎と狐の王位争い

語りの会「りょうかんさん」 おおもとよしこ

昔々、ずっと昔のことじゃ。

あるとき、けだものの王様を決めることになって、たくさんのけだものが広場に集まった。みんながワイワイ、ガヤガヤしゃべっていると、司会のネズミが声を張り上げたのじゃ。

「これから、けだものの王様を決める。誰が王様にふさわしいか、立候補するなり、推薦をしてほしい」

やっと広場が静かになった。しばらくすると猿がおもむろに手を挙げ、「王様はわしじゃ。人間に一番近いわたしが王様にふさわしい」と顔を真っ赤にして言ったと。するとコウモリが羽根をばたつかせて、「空を飛べる僕が王様になる」と叫んだのじゃ。堰を切ったように、次々に立候補した。そのとき、「ウオーッ」虎が大きく吠えて、「この俺が王様じゃ。文句があるものがおるか。ウオーッ」と周囲を見渡した。みんなはトラを恐れて、うしろにひきさがったと。そのとき狐

が、「わしが王様になるぞ」と叫んだのじゃ。すると虎が、

すると虎が、「お前のような、へなちょこが王様だと。俺さまの顔が見えねえか」

と威圧したのじゃ。すぐに狐が、「虎さん、わしがみんなの前を歩くから、ついて来てみなさいよ。どっちが偉いかすぐにわかるから」

そう言って歩き出した。すぐ後を虎はついて行った。すると、けだものたちが、みんなうしろに引き下がって逃げていくと、「どうです虎さん。みんなわしを恐れて逃げるじゃろう」虎は負けてしまったのじゃ。

それでけだものの王様は狐に決まったと。

狐が通るとき、みんなが逃げたのは、いっしょの虎が恐かったからじゃ。

「虎の威を借る狐」という諺はこれから始まったと。昔こつぷり。（「立石おじさんの民話」より）